



執筆者:

アレック・ルーカス  
リサーチアナリスト

日付: 2022年11月4日

GLOBAL X ETFリサーチ

# リチウム市場アップデート: 価格上昇は リチウム鉱山会社にとっての追い風

中国のバッテリー用炭酸リチウム価格は、2022年10月にトン当たり74,475ドルとなり、わずか1ヵ月前の史上最高値を更新しました<sup>1</sup>。リチウム価格は、輸送セグメントの電化と密接な関係があります。近年、政府の緩和的な政策、コストの低下、消費者の嗜好、技術の向上が電気自動車(EV)の急速な普及を支えています。しかし、現状、リチウムの供給はこうした需要の急増に追いついていません。そのため、リチウム市場における需給バランスは今後数年間、供給不足の傾向を示し、供給を担う鉱山会社にとっては絶好の投資機会になると考えられます。

## 重要なポイント

1. 2022年にリチウム価格が上昇した背景には、主としてEV需要の急増とリチウム供給の非弾力性があります。
2. 2020年代前半は需要に見合った供給増は見込めず、供給不足からリチウム価格の上昇が支えられる可能性があります。
3. リチウム価格の上昇で、Albemarle、SQM、Ganfengなど、一般的にリチウム鉱山会社の最近の好調な四半期業績につながっています。

## EVの販売増と非弾力的な供給がリチウム価格を支えると見込まれる

Benchmark Mineral Intelligenceのリチウム価格指数によると、リチウム価格は年初来123%上昇しています。これは従来価格の10倍に相当する水準です<sup>2</sup>。近年、EV需要が加速するに伴い、リチウム需要も増加しています。EVに搭載されるリチウムイオン電池パックには平均して9 kg前後のリチウムが使用されていますが、これは大半の家電製品で使用されるリチウム量の数千倍にも相当します<sup>3</sup>。世界のEV販売台数は、2020年から2021年にかけて330万台から660万台へと倍増し、2022年にはさらに52%増加すると予想されています<sup>4</sup>。

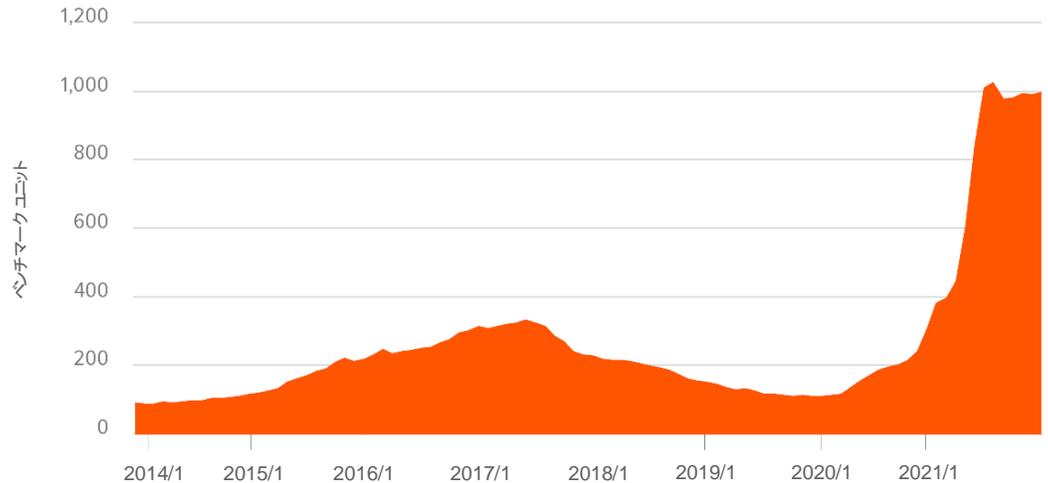
一方、リチウム鉱山会社は供給量を迅速に拡大することができません。採掘方法にもよりますが、新たに生産量を拡大させるには3~5年、場合によってはそれ以上かかります<sup>5</sup>。こうしたリードタイムは、リチウム生産開始に先立つ調査、許認可の取得、資本調達、資本投下に必要な時間です。したがって、鉱山会社は相当先を読むことができない限り、需要増に迅速に対応することは困難です。

また、歴史的にも、鉱山会社は供給量の大幅増によるリチウム価格への影響を恐れて、増産をためらってきました。こうしたシナリオは、鉱山会社が目先のEV販売台数の急速な伸びを予測して、リチウムの増産を行った2015年から2018年にも発生しました。こうした予測は時期尚早であったことが判明し、この間、リチウム価格は乱高下しました。現在のリチウム価格は鉱山会社にとって追い風となっており、また、EVの普及も今では本格的な定着傾向にあることから、鉱山会社は将来に向けた生産能力の増強に前向きになっていると考えます。



### Benchmark Mineral Intelligenceのリチウム価格指数

出所: Global X (Benchmark Mineral Intelligenceからの情報(2022年)を使用して作成)。2022年9月30日時点のBenchmark Mineral Intelligenceリチウム価格指数[データセット]。2022年10月28日にアクセス。



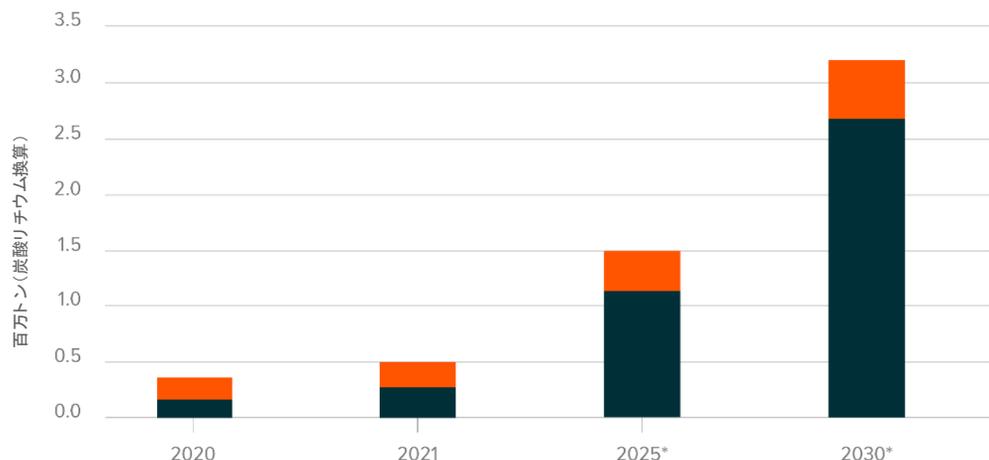
注: 2022年9月現在。

### 需給バランス予測: 2025年までリチウム需要は供給を上回る

2025年のリチウムの年間需要量は炭酸リチウム換算で約150万トン、2030年には300万トンを超えると予測されています<sup>6</sup>。2025年の需要予測は、2021年比で3倍を見込んだものとなっています<sup>7</sup>。リチウムの総需要に占めるEVの割合は、2021年の約55%から2030年には約84%になると考えられます<sup>8</sup>。家電製品、エネルギー貯蔵、その他の産業用途が総需要の残りの部分を占めます。長期的には、リチウム需要は現在の生産能力をはるかに上回ると予測されています。2040年のリチウム年間必要量は、2021年のリチウム年間採掘量を上回る可能性もあります<sup>9</sup>。

### 用途別リチウム需要量(年100万トン、炭酸リチウム換算ベース)

出所: Global X ETF (Norris, E. (2022年6月27日)から得た情報に基づき作成)。国内EVエコシステムの構築: Fastmarketsリチウム供給 & バッテリー用原材料、2022年版。Albemarle。



注: \* 予測

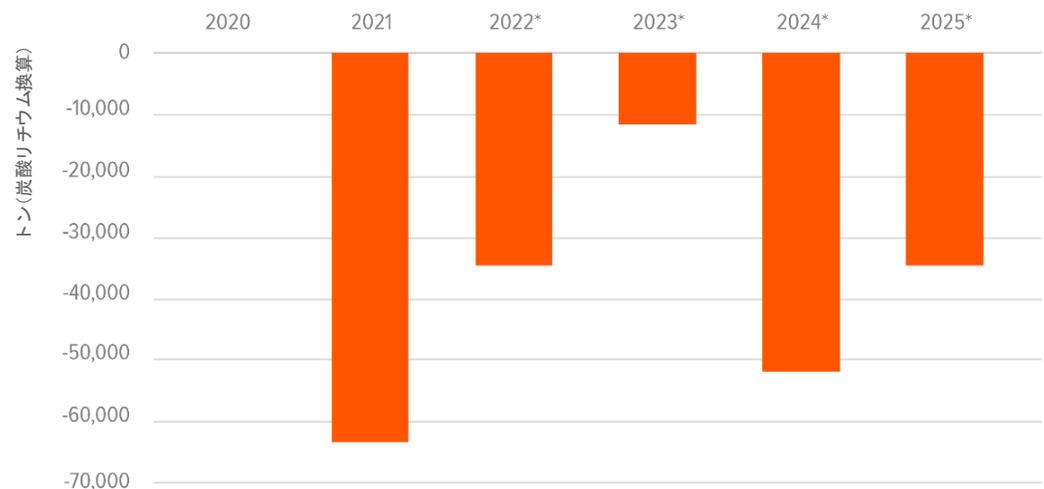
■ EV向けリチウム需要

■ その他用途向けリチウム需要

2020年代前半については、リチウム供給量は需要量に追いつかない可能性があります。短期的には、2023年後半から2024年前半にかけて、注目すべきリチウム採掘場が稼働に入る予定です<sup>10</sup>。こうした新規プロジェクトにより、2023年には供給不足は軽減されますが、EV販売台数の急増により、2024年と2025年には再び大幅な供給不足が発生すると予想されます<sup>11</sup>。2025年には、世界の小型車販売台数に占めるEVの割合は、2021年の9%から20%以上に跳ね上がることも予想されます<sup>12</sup>。鉱山会社のSigma LithiumとBenchmark Mineral Intelligenceによると、リチウム価格はEVの普及状況から見て、当面2022年並みの水準で推移し、2026年頃になって安定すると予想されます<sup>13</sup>。また、新規プロジェクトにより2020年代後半に大量のリチウムが市場に出回ったとしても、リチウム価格は過去平均を上回る水準で推移する可能性があります<sup>14</sup>。

### リチウム市場の年間需給バランス(単位:トン、炭酸リチウム換算ベース)

出所: 下記から得た情報に基づきGlobal X ETFが作成: Benchmark Mineral Intelligence(2022年)を使用して作成。Benchmark Quarterly: 2022年第2四半期レビュー、第30号。



注: マイナスの数値は供給不足を示す。2020年は需給が実質的に均衡。\*予測

### 堅調な企業業績とガイダンスから見て、鉱山会社は今後供給量を増加させられる

リチウム価格の上昇で関連鉱山会社の売上高と最終利益は押し上げられています。リチウムのトップサプライヤーの1社であるAlbemarleは、2022年第2四半期のガイダンスで、リチウム価格は2022会計年度に225~250%上昇する可能性があり、前年度比5倍の1株当たり利益(EPS)が見込めると発表しています<sup>15</sup>。同様に、チリのリチウム生産会社Sociedad Química Y Minera de Chile(ソシエダ・キミカ・イ・ミネラ・デ・チレ(SQM))は、2022年第2四半期の売上高が前年同期比2倍以上になったと報告しています<sup>16</sup>。

好業績に伴い、有力リチウム鉱山会社数社が最近、生産能力拡充計画を発表しています。

1. **Albemarle**: Albemarleは、2022年第3四半期に行った米国加工工場建設計画に関する発表で、2030年までに自社のリチウム生産能力を現在の5倍に相当する50万トンに引き上げると明言しました<sup>17</sup>。
2. **SQM**: 2022年第2四半期に、SQMは炭酸リチウムの生産目標を2023年初頭までに2021年水準の2倍以上に相当する21万トンに引き上げると発表しました<sup>18,19</sup>。
3. **Ganfeng**: 時期は明示しなかったものの、2021年第3四半期にGanfengは、炭酸リチウムの生産能力を5倍の60万トンに引き上げる計画であると発表しました<sup>20</sup>。

また、各国政府もリチウムとEVのサプライチェーン構築を進めようと、リチウム生産能力の増強に向けた奨励策を

実施しています。例えば、米国内でのリチウム施設の開発を進めるため、Albemarleに対しては1億4,970万ドル、Piedmont Lithiumに対しては1億4,170万ドルの連邦助成金がインフラ投資雇用法に基づいて交付される予定です<sup>21</sup>。

将来のリチウム供給拡大に対する意欲の高まりは、EV業界にとって前向きな動きであり、こうした取り組みによって、今後数十年にわたる市場のダイナミクスはより健全なものになると思われます。しかし、こうした取り組みにもかかわらず、リチウムに対する需要の拡大は当面、供給を上回ると予想されます。

## 結論

2022年後半に入り、コモディティ市場は全般的に軟化したものの、リチウム市場は今なお過熱状態にあります。この特殊化学品は世界の電池の大半で使用されており、その世界経済における重要性は今後も続くと思われます。EVの急速な普及に代表される輸送の電化がその主な理由となっています。旺盛なリチウム需要と供給増に至るまでの長時間のリードタイムが重なり、リチウム鉱山会社にとっては良好な価格環境が長期にわたって維持されると予想されます。

## 脚注

1. Benchmark Mineral Intelligence(2022年10月13日)。リチウム:EV販売台数の大幅増が続く中、リチウム価格が中国で過去最高値を更新。 <https://www.benchmarkminerals.com/membership/lithium-prices-touch-record-high-in-china-as-ev-sales-momentum-remains/>
2. Benchmark Mineral Intelligence(日付なし) リチウムイオン電池、電気自動車、エネルギー貯蔵サプライチェーンに関する価格報道機関兼マーケットインテリジェンス。2022年9月30日現在。 <https://www.benchmarkminerals.com/>
3. 国際エネルギー機関(IEA)(2022年3月2日) クリーンエネルギー移行における重要鉱物の役割、世界エネルギー見通しスペシャルレポート。 <https://iea.blob.core.windows.net/assets/ffd2a83b-8c30-4e9d-980a-52b6d9a86fdc/TheRoleofCriticalMineralsinCleanEnergyTransitions.pdf>
4. Hughes, I.(2022年)。EVおよびバッテリーの四半期予想:2022年第3四半期Rho Motion
5. Benchmark Mineral Intelligence(2022年9月6日)。バッテリー原材料:バッテリー需要に対応するため、2035年までに300カ所以上の新規鉱山が必要。 <https://www.benchmarkminerals.com/membership/more-than-300-new-mines-required-to-meet-battery-demand-by-2035/>
6. Norris, E.(2022年6月27日)。国内EVエコシステムの構築:Fastmarketsリチウム供給&バッテリー用原材料(2022年版)Albemarle。
7. 同上。
8. 同上。
9. Benchmark Mineral Intelligence。(2022年10月13日)。自動車メーカーが世代間問題に直面する中、リチウムは2050年までに20倍に拡大する必要がある。 <https://www.benchmarkminerals.com/membership/lithium-has-to-scale-twenty-times-by-2050-as-automakers-face-generational-challenge/>
10. Benchmark Mineral Intelligence(2022年8月25日)。リチウム:2022年以降のリチウム価格を牽引するものは何か? <https://www.benchmarkminerals.com/membership/what-is-driving-lithium-prices-in-2022-and-beyond/>
11. Benchmark Mineral Intelligence(2022年)を使用して作成。Benchmark Quarterly:2022年第2四半期レビュー、第30号。
12. Hughes, I.(2022年)。EVおよびバッテリーの四半期予想:2022年第3四半期Rho Motion
13. Sigma Lithium(2022年10月3日)。会社発表、2022年10月。 <https://ir.sigmalithiumresources.com/static-files/bd16b698-6b19-443e-b6df-2e30bf21a8b6>
14. 同上。
15. FactSet: CallStreet(2022年8月4日)。Albemarle Corp. (ALB): 2022年第2四半期決算説明会
16. FactSet。(日付なし)。「データセット」。2022年10月28日にアクセス。
17. Scheyder, E.(2022年6月28日)。エネルギー:Albemarle、米国で大規模なリチウム処理工場を計画 Reuters。 <https://www.reuters.com/business/energy/albemarle-plans-major-us-lithium-processing-plant-2022-06-27/>
18. Mckenzie, C.(2022年4月8日)。Sociedad Química y Minera de Chile SA:2021年年次報告書。SQM。 [https://s25.q4cdn.com/757756353/files/doc\\_financials/2021/ar/Memoria-Anual-2021\\_eng.pdf](https://s25.q4cdn.com/757756353/files/doc_financials/2021/ar/Memoria-Anual-2021_eng.pdf)
19. Cambero, F, A.(2022年4月26日)。コモディティ:チリのSQM、リチウム生産能力拡大に向け、9億ドルを投資。Nasdaq。 [https://www.nasdaq.com/articles/chiles-sqm-to-invest-\\$900-million-as-lithium-capacity-expands](https://www.nasdaq.com/articles/chiles-sqm-to-invest-$900-million-as-lithium-capacity-expands)
20. Daly, T., & Orlofsky, S.(2021年6月8日)。コモディティ・ニュース:中国のGanfeng、年5万トンの生産能力を持つリチウム工場を建設予定。Reuters。 <https://www.reuters.com/article/us-ganfeng-lithium-capacity/chinas-ganfeng-to-build-new-50000-tonnes-per-year-lithium-plant-idUSKCN2DK1PD>



21. Shepardson, D., & Scheyder, E. (2022年10月19日)。マイニング・ニュース: バイデン大統領、EVバッテリー向け米国産鉱物の生産拡大に28億ドルを交付。Kitco News。 <https://www.kitco.com/news/2022-10-19/UPDATE-2-Biden-awards-2-8-billion-to-boost-U-S-minerals-output-for-EV-batteries.html>

投資は元本が毀損する可能性などのリスクを伴います。国際投資には通貨価値の不利な変動、一般に公正妥当と認められる会計原則の相違または他国の社会的、経済的もしくは政治的不安定性を原因とする元本毀損リスクが伴う場合があります。新興国市場については上記と同一の要因に加え、高い変動性および低い流動性に起因する他市場より高いリスクが伴います。

対象範囲が狭く設定された投資は、ボラティリティが高まる可能性があります。リチウムおよびリチウム採掘業界への投資には、その他にも追加的なリスクが存在します。

本資料は特定の一時点における市場環境の評価であり、今後の出来事を予測することを意図しておらず、今後の成果を保証するものではありません。この情報は、特定のファンドまたは株式に関する調査または投資助言として読者が依拠すべきものではありません。将来予測的な指標は、ファンドの将来のパフォーマンスを予測するものではありません。

ETFの証券は市場価格(NAVではありません)で売買され、当ファンドが個別に償還することはありません。投資リターンは、仲介手数料により減少します。

**投資を実際に行う前に、金融商品の投資目標、リスク要因、手数料、費用について慎重にご検討ください。この情報およびその他の情報はファンドの要約書または完全な目論見書に掲載されています。投資を行う前に、十分注意して目論見書をお読みください。**

Global X Management Company LLCはGlobal Xファンドのアドバイザーです。当ファンドは、SEI Investments Distribution Co. (SIDCO)が販売しています。SIDCOはGlobal X Management Company LLCあるいはMirae Asset Global Investmentsの関連会社ではありません。Global Xファンドは、Solactive AGが協賛、保証、発行、販売、または宣伝するものではなく、Solactive AGはGlobal Xファンドへの投資の是非について一切意見を表明しません。SIDCO、Global X、およびMirae Asset Global Investmentsはいずれも、Solactive AGの関連会社ではありません。